

# 秋田県理学療法士会ニュース



第174号  
2017年1月15日発行

発行：公益社団法人 秋田県理学療法士会  
 会長：菅原 慶勇 編集：加賀屋勇気 印刷：(株)秋田情報プリント  
 事務局：〒010-0921 秋田市大町1丁目2-40  
 TEL・FAX 018-867-1804 E-mail akitapt-home@ptakita.org  
 ホームページ http://www.ptakita.org

## 新年ご挨拶

公益社団法人 秋田県理学療法士会  
 会長 菅原 慶勇



謹んで新春のごあいさつを申し上げます。会員の皆様には、旧年中当法人の運営につきまして格別のご協力とご支援を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。昨年12月には公益法人移行後2度目の立入検査が実施されましたが、新公益法人制度を逸脱するような指摘はされませんでした。これも会員の皆様の各事業に対するご協力とご苦労があったことと重ねてお礼申し上げます。

さて、昨年6月に前任の高橋先生より会長の任を引継いでから、大きな出来事が二つありました。第34回東北理学療法学会の開催と秋田県リハビリテーション専門職協議会の発足です。第34回東北理学療法学会ではテーマを「予防と理学療法—将来世代への贈り物—」とし、2日間に渡り秋田市において県内外の多くの方々と共に議論を深めることができました。演題数は過去最高の140題にのぼり、参加者は739名を数えました。何よりも170名を超えるスタッフが横に繋がり信頼関係を築けた

ことは、当法人の将来において大きな宝になることは間違いなく、とても嬉しく感じています。秋田県リハビリテーション専門職協議会の発足は、平成29年4月にすべての市町村で介護予防・日常生活支援総合事業が発展的見直しのうえ実施されることを受け、リハビリテーション専門職であるPT・OT・STが積極的に地域に参画していこうとする意思表示です。今後、地域から当協議会に要請があった場合、実際は各地区の窓口で要請を受け、その地区のPT・OT・STが地区毎に話し合いを持ち、派遣する人材の調整など様々な点に対応し要望に応じていきます。今後の当法人の立ち位置に係る重要な事業の一つにもなります。会員の皆様には、ご負担をおかけ致しますが「手の届く連携システム構築」のためにご協力をお願い申し上げます。

来年度以降、新たな動きが二つあります。一つは、昨年、畠山副会長を中心に事業局の大幅な班編制を行い、来年度から研修部内に専門領域研修班を設置することになりました。専門領域研修班は、まずは神経・運動器・呼吸・循環器・老年の5つの研究会で組織され、若手会員を中心に横の繋がりを持つ、各分野の最新情報を共有し研鑽する、ひいては秋田からエビデンスを発信するといった目標を掲げます。研究会への参加は若手から古参まで自主的で自由です。一人職場で研究に時間が割けないとか、研究のノウハウを詳しく知りたい方には特にお勧めです。もう一つは、会費前納制が2018年度年会費よりスタートする予定です。今まで6月末に引き落とされていた会費が、3月末に前倒しになります。これは会費未納の債務を抱えたままでの県外異動や毎年の未収会費の貸倒損失、未払者に対する発送コストが多額に及ぶこと等への対処です。今後、逐一情報を流しますのでご留意下さい。

平成30年には医療介護報酬の同時改定が予定されており、近くは平成37年(2025年)を見据えたビジョンを念頭に、今後とも幅広く関係団体と連携を取りつつ事業を展開していきたいと考えています。県民の皆様が住み慣れた地域において、自らにある身体機能を十分に発揮できる生活が人生の最期まで続けることができるための有益な情報を発信することができるよう、互いに手を取合い切磋琢磨し理学療法の啓発と推進に取り組んで参りましょう。

最後に、本年も当法人の取組へのご理解とご協力をお願いするとともに、会員の皆様にとって素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

### 特集：第34回東北理学療法学会

#### 表彰報告

理事会報告 部長だより 会長のうごき

研究に恋して 岩澤里美

マイブーム 高橋裕介

1

2017

Jan.

Feb.



2

酉



### 〈特集〉

## 第34回東北理学療法学会

第34回東北理学療法学会、この学会は6年に一度、東北6県が持ち回りで会場運営を任せられます。そして今年度は、秋田県理学療法士会が担当となりました。今大会は、大会長に菅原慶勇会長を据え、大会準備委員長を島山和利副会長が務め、秋田市の文化会館を会場に2日間にわたって行われました。

本番が差し迫った11月初頭、秋田市では、例年のように少しずつ冬の訪れを感じるようになり、学会直前には雪が降り始めました。当日の天気は懸念されるも、雪はやみ、路面状況も良好。天候にも恵まれた本学会は、延べ739名もの参加者を数え、大盛況となりました。

### 過去最多の演題数

今学会では、演題登録数が秋田県開催で過去最多となる140を数えました。東北6県の中でも決して大きいとは言えない秋田県で、これほどの参加者・演題数が集まった背景には、学会のテーマが、非常にタイムリーであったことが伺われます。「予防と理学療法」というキーワードを掲げ、2025年に向けて各専門領域からどの

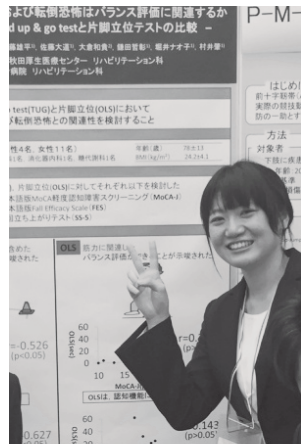
ように対応すべきか、ということに対してテーマを設定したことによるものではないでしょうか？（実際に、東北6県以外の北海道、大阪府からの参加者もいました）。また、秋田県理学療法士会の会員一人ひとりが地元開催を盛り上げようと、積極的に“演者”として、学会に参加した点も大きかったと思います。日頃なかなか学会に参加できない理学療法士であっても、今回はホームでの開催であることから、初めての発表という参加者も多く、学会を盛り上げておりました。その中の一人、秋田厚生医療センターの小原一葉さん（臨床2年目）は、初の学会発表をこう振り返ります。



会場となった文化会館入口

「卒論以来の研究ということもあり、何をどのようにしてよいのか手が出せず、抄録作成の段階から悩んでばかりいました。職場や大学の先輩方から、とりあえずやってみなよ、という声をかけていただき、皆さんのご協力もあって少しずつ進めることができました。当日までずっと緊張していましたが、終わってみればあつという間だったと思います。とても1人では出来なかったと思うので、手伝ってくださった方々には本当に感謝しています。今回の研究・発表の機会を通して、出来ないと思っていたことでも、悩んでもやってみれば、少しずつ変わって行って目指すところに近づいていくんだということに気づかせていただきました。以前より勉強する機会も増えたので、今後につなげていきたいと思ひます」

すでに学会経験豊富な先輩理学療法士が、初めての学会発表となる若手をしっかりとサポートする。今学会の成功の裏には秋田県理学療法士会の強固な縦と横のつながりがあることを確認できるコメントでありました。



小原一葉さん ポスターの前で

### 成功の影に170名を超えるスタッフ

今大会の成功で170名を超えるスタッフ、士会員の縦と横のつながりを改めて感じることができました。学会は運営執行部だけでは準備運営を進めていくことができません。全県から多くのスタッフが、学会当日のみならず、学会に向けての準備期間から日々それぞれの業務を進めてきた上で成立した学会でありました。

数と言えば印象的だったのが、学生ポスターセッションでありました。ポスター会場で一際目立つ人ばかりができておりました。演者の周りに、仲間たちが輪を作る様子がうかがえ、発表する同年代の演者を、真剣に見つめる様子が、微笑ましくも頼もしく感じられました。今回、彼らが学生のうちに学会を経験できたことは、今後につながる貴重な財産となると思ひます（後半では学生の感想を掲載）。

演題数140題。運営スタッフ172名。参加者739名。運営においても、参加者においても、数が大きな力となり、大成功につながった学会であったように思ひます。

(文責：加賀屋勇氣、若狭正彦)



# The 34th Annual Tohoku Physical Therapy Seminar 1-4



## セミナー1 講師：林典雄先生

運動器機能解剖学研究所の林典雄先生より「拘縮予防の見地から見た足関節脱臼骨折後の運動療法」についてご講演いただきました。骨折部位や症状などから損傷が生じている組織を推定する考え方などについて、X線画像や超音波画像・動画などを用いて分かりやすく解説していただきました。

## セミナー2 講師：神津玲先生

長崎大学の神津先生からは「急性ならびに慢性呼吸不全に対する予防対策について」というテーマでご講演いただきました。多くの呼吸器疾患は、発症・重症化・再発の予防が可能な疾患であり、理学療法士がどう役割を果たすべきか、医療者として喫煙がニコチン依存症という病気であることの認識が重要であることをご教授くださいました。



## セミナー3 講師：古名丈人先生

「予防理学療法の展開」と題して、札幌医科大学保健医療学部理学療法第一講座の古名丈人先生からご講演いただきました。高齢化に関連するフレイルやサルコペニアなどの概念から、今後の理学療法の方向性までを、介護予防の観点を交えながら、課題と解決方法についてご教授頂きました。



## セミナー4 講師：澤田明彦先生

神奈川県七沢リハビリテーション病院脳血管センターから、澤田明彦先生がお越しいただき、「脳卒中者の歩行機能再獲得は言うほど容易ではないけれど、できるだけ簡潔に考える」という興味深いタイトルでご講演いただきました。脳卒中患者の歩行再獲得に向けて、我々が介助する際の考え方やコツを多くの事例を通して教えていただきました。



## Special lecture



## 特別講演 講師：宮下政司先生

早稲田大学スポーツ科学学術院の宮下政司先生が「身体活動の増加による生活習慣病の予防～空腹時及び食後の糖・脂質代謝の視点から～」というテーマで講演して下さいました。運動の頻度が糖・脂質代謝に及ぼす影響について検討した研究結果や、糖・脂質代謝に対する生活活動の有効性を検討した研究結果を先生の知見を含めて紹介して下さいました。

## Public lecture



## 市民公開講座 講師：鈴木裕之先生

秋田市のすずきクリニックから鈴木医院長が、「延ばすのは寿命ではなく健康寿命」というテーマでお話くださいました。“一診一笑”をモットーとし、南々亭骨太（なんなんていこった）という名で漫談家としても活躍される鈴木先生らしい、終始笑いの絶えない中でのお話でした。認知症やがんの予防に関して運動と絡めて分かりやすく健康寿命延伸の方策をお話くださいました。

# Congress, 2016 Photo Galleries Symposium



加藤 義人先生 赤塚 清矢先生 須藤 恵理子先生

東北大学病院

総合南東北病院

須藤内科クリニック



竹内 雅史先生 舟見 敬成先生 中田 隆文先生

## ーシンポジウムー

秋田大学の若狭氏を座長に据え、今学会のテーマである「予防」を軸に、スポーツ、運動器、神経系、循環器、糖・代謝、呼吸器の各領域で、介入の具体的な方策について話し合われました。



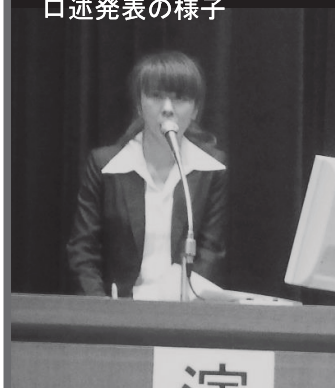
口述発表の様子



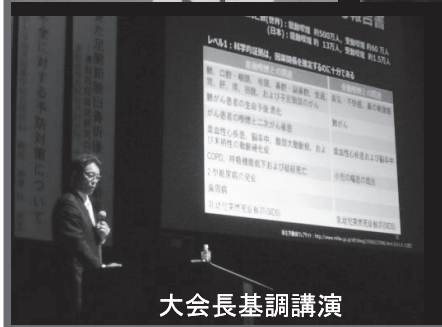
セミナー 質疑応答



大会長・副会長・準備委員長にて記念撮影



ポスターセッションの様子



大会長基調講演



開会式 2階席から



多くの参加者にお越しいただきました

## 学生ポスターセッションー学会発表を終えてー

秋田大学医学部保健学科理学療法学専攻 3年 荻野菜摘

11月に開催された東北理学療法学術大会にて、「足部機能と足アーチ高率との関係について」というテーマでポスター発表をする機会を頂きました。この研究は、ゼミの班員7名で4月から7月にかけて進めてきたものでした。学術大会での発表に向けて準備をするにあたり、学外での発表、ポスターという形式など、慣れない形式での発表に最初は戸惑いがありました。データの再確認や考察の再考など、研究を振り返るところから準備を開始しました。テーマ・研究方法から結果・考察まで研究当時にまとめたものを数ヶ月ぶりに見直すと、新たな視点や反省点が出てきました。今回、研究時には思いつかなかった様々な可能性を考慮して統計処理を再度行くと、新たな研究結果が得られ、以前とは異なる考察が可能になりました。1つのテーマについて十分研究したつもりになっていたものの、まだまだ追求できることがあると気づかされました。また、自分たちの研究を振り返ることで、研究することの楽しさや奥深さを知ることができました。ポスター作製の段階では、研究で得られたデータ数が多く、1枚にまとめることにとっても苦労しました。



荻野さん（上段中央）と佐竹教授とゼミ生

研究を通して1番調べたかったことは何だったのか、発表で1番知ってもらいたいことは何なのか。班員で話し合ったり、先生方にアドバイスを頂いたり時間はかかりましたが、最終的には研究を深めることに繋がったと思います。

本番では、ポスターにまとめた内容を更に簡潔に口頭で発表しました。研究過程を見ていない人へ正確に内容が伝えられるのかという不安がありましたが、発表後に参考にした先行研究の先生をはじめ、様々な方から客観的な視点での質問やアドバイスを頂くことができ、今後の研究の励みとなりました。

学術大会中、学生発表の時間以外は様々な口述発表やポスター発表を傍聴しました。発表を聞く前は、学生には理解できない内容なのではないかと思っていましたが、実際には難しい内容でも分かりやすい発表の仕方、想像以上に理解し楽しむことができました。今まで知らなかった分野に興味を持ったり、聞き手に伝わりやすい発表方法を学習したり、有意義な時間を過ごすことができました。

荻野さん発表お疲れ様でした。ぜひ今後も研究、頑張りましょう！

## 学会を裏で支えた立役者たち



楽屋



ポスター会場の片づけ



ポスター会場受付



OCS管理



クローク受付



会場受付

今回、自分自身が学会運営に参加し、これほど多くのスタッフが動いて学会は成立しているんだということを知りました。本当に貴重な経験をさせていただきました。有難うございます。皆様、本当にお疲れ様でした。6年後にさらにパワーアップして頑張りましょう！

ー第34回東北理学療法学術学会 記録部 加賀屋勇氣

## 表 彰 報 告

平成28年11月17日、秋田県庁正庁において、平成28年度環境・保健事業功労者表彰式がかくも盛大に執り行われました。

当会からは、医療功労者として秋田大学名誉教授工藤俊輔先生、社会福祉法人平鹿悠真会悠西苑願法廣典先生、社会福祉法人本荘久寿会ひまわりの里小松しのぶ先生の3名が表彰されました。いずれも士会の草創期から、県民の保健・医療・福祉の分野で理学療法士の発展のためご尽力いただき、ご活躍された先生方です。この度の表彰を士会の代表として誇りに思うとともに、今後とも後輩の道しるべとしてなお一層ご指導いただきたいと存じます。心からお祝い申し上げます。(文責：菅原慶勇)



受賞者の皆様からコメントをいただきました。

秋田県環境・保健事業功労者の表彰を受けました。秋田大学の退職と重なり良い人生の区切りをつけることができたと思っています。これまで秋田県士会の皆様には学生の教育や実習等色々お世話をお掛けしました。皆様の支えがあってこそ表彰に繋がる業績をあげることができました。心よりお礼申し上げます。

秋田大学名誉教授 工藤 俊輔 先生

この度、秋田県環境・保健事業功労者表彰を賜りましたこと、これはひとえに秋田県理学療法士会会員皆様のご厚情の賜と深く感謝申し上げます。

馬齢を重ねて高齢に座する身ではありますが、この度の栄誉を励みに、地域包括ケアシステム推進に理学療法士としてもう少し精進したいと考えております。

菅原会長はじめ会員の皆様には、これからもご交誼、ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

社会福祉法人平鹿悠真会特別養護老人ホーム悠西苑 願法 廣典 先生

還暦祝いを前にして、このような名誉ある賞を頂けるとは夢にも思っておりませんでした。秋田県理学療法士会の皆様方のご尽力やご支援による賜物と思い大変感謝いたします。

まだ現役で勤めて参りますが、理学療法士という職務を誇りに思い、これからも精進して参りたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、秋田県理学療法士会の益々のご活躍とご発展を心よりお祈りしております。

社会福祉法人本荘久寿会ひまわりの里 小松しのぶ 先生

# 事務局報告

(平成28年12月14日)

1. 会員動向  
正会員数581名、名誉会員数2名、休会者数32名)  
賛助会員数8社
2. 公文書発行数 28件
3. ニュース、機関誌、印刷物等の受領  
日本理学療法士協会資料等なし  
他士会ニュース・広報誌10件  
他士会印刷物3件  
他団体印刷物19件

## 平成28年度第4回理事会議事録要約

1. 招集年月日 平成28年9月24日
1. 開催場所 秋田大学保健学科 日常生活活動実習室 (B棟3F)
1. 開催日時 平成28年10月12日(水) 18:00-21:30
1. 総理事数 12名
1. 出席者 本人出席 12名(菅原、須藤、畠山、渡部、松橋、田安、若狭、初山、大場、  
柏木、ジョーンズ、井上)  
監事 2名(倉田、鈴木)  
欠席 0名  
議長 菅原慶勇  
議事録作成理事 渡部裕之  
書記 伝農秀樹(総務班)

### 【審議事項】

1. 事業局班再編成案について(提案理事:畠山)  
畠山事業局長より、事業局再編成案について、事業局の事業が多岐にわたり、重複しているものも散見されるとのことで審議がなされた。次年度計画予算案から以下の班編成で活動していくことが承認された。  
事業部 ・公開事業班  
・障がい・スポーツ支援班  
・小児理学療法支援班  
・調査活動班  
研修部 ・生涯学習班  
・企画運営班  
・専門領域研究班  
広報部 ・機関誌編集班  
・ニュース編集班  
・ホームページ班
- ・渉外班  
ブロック・研修班  
・地域理学療法推進班
2. 議事録署名に関する整合性について(提案理事:大場)  
議事録署名に関する整合性について、定款の本件にかかる部分を総会運営規程へ変更することが適当であることが説明された。審議の結果、来年度の定時総会で定款改定の議案を提出することで承認された。
3. 倫理規定の承認を求める件(提案理事:大場)  
倫理規定の承認を求める件について、資料に沿って説明がなされた。提案された倫理規定案について、修正点が提案され、継続審議となった。



4. 第22回秋田県理学療法士学会企画書・趣意書について（提案理事：大場）

第22回秋田県理学療法士学会企画書・趣意書について、資料に沿って説明がなされた。審議の結果、趣意書の軽微な加筆修正を行った後、各理事より校正を行うことで承認された。

5. 認定・専門理学療法士取得を促すリーフレットの配布について（提案理事：初山）

認定・専門理学療法士取得を促すリーフレットの配布について、資料に沿って説明がなされた。審議の上、全会一致で承認された。

6. 障がい予防・スポーツ支援班の補正予算の策定について（提案理事：田安）

田安事業部長より、障がい予防・スポーツ支援班の補正予算案の策定について、説明がなされた。全会一致で承認された。

7. 「理学療法週間事業」補助金交付の用途について（提案理事：須藤）

須藤事務局長より、「理学療法週間事業」補助金交付の用途について、資料に沿って説明がなされた。審議の結果、障がい予防・スポーツ支援班への追加補正、介護予防及び地域包括ケア推進リーダー導入研修会への追加補正、事務所の設備投資の優先順位で取り扱うことが承認された。

8. 秋田県理学療法士会ニュースの今後の発行部数に関する検討（提案理事：若狭）

秋田県理学療法士会ニュースの今後の発行部数に関する検討について、資料に沿って説明がなされた。審議の結果、1施設3部、個人会員1部配布することで承認された。

9. 理学療法士講習会（応用編）の開催について（提案理事：ジョーンズ）

理学療法士講習会（応用編）の開催について資料に沿って説明がなされた。審議の上、全会一致で承認された。

10. 29年度秋田県計画に係る事業提案について（提案理事：畠山）

畠山事業部長より、29年度秋田県計画に係る事業提案について、資料に沿って説明がなされた。審議の上、全会一致で承認された。

#### 【協会・ブロックからの審議報告事項】

1. 平成28年度都道府県理学療法士事務局会議（提案理事：須藤）

資料に沿って報告がなされた。協会が進めているシルバーリハビリ体操指導者養成事業に係る県マネージャーを次回理事会で検討することが決定した。

2. 理学療法啓発および介護予防・健康増進事業への協力について（提案理事：須藤）

須藤事務局長より、理学療法啓発および介護予防・健康増進事業への協力について、資料に沿って報告がなされた。

3. 第6回3士会連携会議報告（提案理事：須藤）

須藤事務局長より、第6回3士会連携会議について、資料に沿って報告がなされた。

#### 【業務理事執行報告】

1. 会長報告

菅原会長より、行動録について報告がなされた。

2. 各局・部（班）報告

各理事より資料に沿って報告がなされた。その中で、田安事業部長より、「第50回全国ろうあ者体育大会（サッカー競技）」に関して報告がなされた。菅原会長より手話通訳の方はろうあ者協会の方でつけてくれたのかという質問があり、ろうあ者協会の事務局の方が通訳を行ってくれたと回答がなされた。また、須藤事務局長よりろうあ者協会の方から予算はついたのかという質問があり、サポート依頼があったのが遅く県士会から予算の持ち出しがあったと回答した。また、菅原会長より、県士会からの持ち出しはせず、予算の範囲内で協力するようにとの提言がなされた。

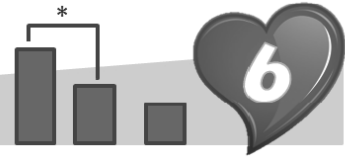
1. 平成28年度第5回拡大理事会

日時：平成28年12月14日（水）16：30

会場：秋田大学医学部保健学科



# 研究に恋して



## 今月の Scientist PT

岩澤里美 (秋田県立リハビリテーション・精神医療センター)

簡単に短下肢装具を選択できるものを見つけない

脳卒中患者さんの内反足や下垂足、反張膝といった歩容の改善には短下肢装具が用いられていますが、短下肢装具にはさまざまな種類があり、また制動力を調整できるものもあるため、歩容分析からどの患者さんにはどの短下肢装具を使用するか悩むことが多いです。そこで『歩行分析が十分にできなくても簡単に短下肢装具の適応が分かればいいのになぁ』と思い、自分の研究テーマは短下肢装具の適応になりました。

最初は脳卒中患者さんに多く使用されているSHBやオルトトップ、オルトトップLH、オルトトップLHプラスの適応を検討したいと思い、これらを装着し電子角度計を用いての歩行分析、10m最大歩行速度の測定を行いました。同時にMMTや筋緊張、足関節背屈ROM、MOAなどの身体機能を評価し、これらから短下肢装具の適応を検討しました。その結果、MMT 0-1はSHB、2-3はオルトトップLH、4-5は装具なしが適応となる可能性が示されました。しかし実際に処方された短下肢装具との相違を調査するとオルトトップLHの適合率は約半数で、PTはMMTの股関節屈曲や足関節底屈筋の筋緊張も考慮して短下肢装

具を処方していることが分かりました。この経験を活かして現在は短下肢装具を選択するための評価指標を見つけることができなかと研究を継続しています。



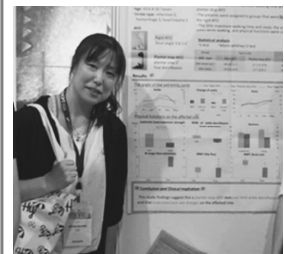
全国PT学会にて (in 札幌)

研究を始めたことにより様々な方と出会い、多くのことを学ぶことができました。その中でも研究にご協力頂いた多くの患者さんから『自分が協力することによって今後同じような病気になった人の役に立てるならなんでもする』と言われたことがすごく印象に残っており、その想いを無駄にしないようにこれからも続けていきたいと思えます。また途中で投げ出したくなることも多々ありましたが、現在も研究を続けられているのはご協力頂いた患者さんはもちろんですが、支えて頂いている職場の方々、ご指導頂いているの方々のおかげだと思っています。この場を借りて感謝申し上げます。

表1. AFOの種類による歩行時の足関節背屈角度 (単位:°)

	適応: LH		適応: SHB		適応: 装具なし	
	初期接地	遊脚中期	初期接地	遊脚中期	初期接地	遊脚中期
AFO なし	-6.8±7.2	-0.8±9.5	-13.0±4.0	-10.4±6.7	0.1±5.6	3.3±6.7
オルトトップ	-5.4±4.8	-1.7±3.4	-6.6±5.3	-6.0±3.6	-1.4±4.5	0.6±4.8
LH	-4.6±6.1	-2.1±5.6	-6.0±2.5	-4.4±1.5	-0.2±4.3	1.2±3.9
プラス	-1.3±5.0	0.6±3.7	-5.9±4.9	-1.0±5.9	-0.7±3.5	0.7±3.7
SHB	2.6±4.9	3.1±4.5	0.7±2.4	1.6±2.2	1.1±3.8	2.8±2.8

### -PROFILE-



岩澤里美 先生  
岩手リハビリテーション学院理学療法学科を卒業。現在、秋田県立リハビリテーション・精神医療センターに勤務。日本理学療法学会他、日本義肢装具学会、筋徒手療法研究会(仙台、秋田)、日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士会に所属。

# マイブーム

秋田大学医学部附属病院  
高橋 裕介

山王整形外科医院の木下先生からご紹介いただきました秋田大学医学部附属病院の高橋（通称：たかゆう）です。アクティブアウトドア系男子の彼とは打って変わって、私は色白インドア系男子です。ただし、自称アグレッシブなインドアです。今回は数ある趣味の中からテレビゲームの話をします。では、私がかつてハマったゲームたちを**独善的に**紹介していきたいと思います。さあ、はりきっていきましょう！

## 【ドラゴンクエストヒーローズ2】

ドラゴンクエストに無双ゲームシステムを採用した作品。ただの無双ゲームに成り下がることなく、ドラクエらしさ、RPGらしさをちゃんと残している。「はかいのてっきゅう」をトルネコの技にしているなど、呪文やアイテムの取り入れ方も絶妙。前作よりも大幅にグレードアップし、フィールドの移動もある。個人的には新しいRPGの形を提唱した画期的な作品だと思う。ターン制バトルシステムが好きなファンたちからは賛否両論のようだが、「ダイの大冒険」を読んで育った私にはもはや感動しかない。あと、ホミロンが可愛い。

## 【セブンスドラゴン2020】

大学生の頃にやってとてもハマったゲームの一つ。2020年、地球に突如として来襲したドラゴンによって、東京は壊滅状態に。特務機関ムラクモは生き残った人類たちと力を合わせて地球の危機脱却と日本再興に挑む。とにかくドラゴンがチャート的に強くてやりごたえ抜群。登場するキャラクターにモブキャラが一人もいなく、様々な犠牲を払いながらラストステージにたどり着くため、色んな想いを抱えながらラスボスを打つ。あのとき、僕とみんなの心は一つだったと確信している。これほどまで強く感情移入したゲームは他にない。Ⅱは就職してからプレイしたが、仕事が忙しくて頓挫した。とりあえずⅡをやり直したい。

## 【魔女と百騎兵】

パッケージに一目ぼれして購入したゲーム。沼の魔女メタリカの使い魔「百騎兵」を操作し、悪逆非道の限りを尽くすダークファンタジーアクションRPGゲーム。なによりも世界観がたまらない。ゲームなのとにかく魔女たちの感じの悪さの描写が秀逸で、予想を裏切る展開の連続。悪意や残忍さがかえって清々しい。ノーマルエンドを迎えた時の衝撃と絶望感はいまだに忘れられない。難易度も満足できる。第2作の制作が決まったとのことで、必ず買おうと思っている。きっと2作目を買ったら日中の覚醒度が下がる。アニメ化してほしい。

## 【CATHERINE キャサリン】

父親から借りてプレイしたゲーム。交際歴5年にして結婚願望を仄めかす恋人と突如現れた妖艶で小悪魔的な美女という二人の「キャサリン」の間で揺れ動く男が主人公。小悪魔的キャサリンと出会ってから毎晩、悪夢にうなされるようになり、崩れゆく床や迫りくる悪夢から逃げるために階段を作って壁を登る。ひたすら登る。悪夢の演出やスリル感、ステージをクリアした時の達成感に中毒性がある。また、キャラクターデザインやクラシックを採用した音楽などがスタイリッシュでよい。難易度が高く、メーカーが途中で「スーパーイーザー機能」を追加するに至る。

## 【NieR Replicant】

友人からプレステ3ごと借りてプレイしたゲーム。泣いた、とにかく泣いた。3日で2周した。

いかがでしたでしょうか。まだまだ書き足りないのですが、紙面の都合上このくらいにします。次回は秋田厚生医療センターの小原一葉先生にお願いしたいと思います。よろしくお祈りします。



## ニュース編集班より

ニュース編集班班長の加賀屋です。今号のニュースはいかがだったでしょうか？ニュースへのご意見・ご指導など下記連絡先までお寄せいただくと幸いです。

次回ニュースの原稿締め切りは2月20日（月）です。載せたいニュース、写真などありましたら、ニュース編集班までお寄せください。

「マイブーム」を依頼された秋田厚生医療センターの小原一葉先生も、この期日までにご自身の写真つきの原稿を送付して下さるようお願いいたします。(1,000～1,500字程度)

連絡・送付先：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

問い合わせ先：秋田県立脳血管研究センター 機能訓練部 加賀屋勇氣

Tel：018-833-0115 Fax：018-833-2104 E-mail：kagaya-yuki@akita-hos.or.jp

学校法人 コア学園

### 秋田リハビリテーション学院

厚生労働大臣指定・秋田県知事認可校



平成27年4月開校  
秋田県初!  
理学療法士養成専門学校

理学療法学科

4年課程

40名定員



〒010-0065 秋田市茨島一丁目4-80  
TEL 018-865-0188 FAX 018-864-6137 URL <http://www.core-akita.ac.jp/arc/>

●応援します! 医療と福祉を確かな技術で

### 有限会社 共栄メディカル

●総合医療機器 ●理化学器械 ●福祉用具レンタル ●介護用品 ●厨房設備機械 ●業務用洗濯機械

〒014-0102 秋田県大仙市四ッ屋字水木田33

〒010-0964 秋田市八橋巖沼1-35 サニーハイツ102

TEL 0187-66-2123 (代)

FAX 0187-66-2139

☎ 0120-971-294

信頼の医療機器

### 株式会社 秋田医科器械店

代表取締役 佐藤 俊介

本社 〒010-1423 秋田市仁井田字中谷地30-2  
Tel.018-839-3551(代) Fax.018-839-3546  
本荘営業所 〒013-0064 横手市赤坂字大道向2-4  
Tel.0182-32-8311(代) Fax.0182-32-8313  
能代営業所 〒016-0014 能代市落合字上釜谷地189番  
Tel.0185-52-0024(代) Fax.0185-54-7319

生体現象測定装置・FES（機能的電気刺激）  
リハビリテーション機器 販売

### 有限会社 バイオテック

代表取締役 飯塚 清美

〒010-0041 秋田市広面字碓80-1

TEL 018-837-0161

FAX 018-837-0162

高度管理医療機器販売業 第04-000026号

### 有限会社 秋田ブレース

義肢 装具 コルセット 車椅子各種杖

〒019-2621

秋田県秋田市河辺諸井字野田96-5

TEL/FAX 018-882-2116

TEIJIN

患者さんの  
Quality of Lifeの向上が  
テイジンの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人在宅医療株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD(XX)NAC(TB)1201

(社)日本義肢協会  
登録・東北119号

厚生労働省指定工場

義肢・装具・コルセット・車椅子・各種杖

# 株式会社 佐々木義肢製作所

代表取締役 佐々木 和憲

本社 〒980-0801 仙台市青葉区木町通二丁目3-3(木町通小学校前)  
TEL (022) 274-1181(代) FAX (022) 274-1183  
支店 〒010-0973 秋田市八橋本町二丁目7-1  
TEL (018) 862-7204(代) FAX (018) 862-9347  
〒036-8227 弘前市大字桔梗野二丁目16-12  
TEL (0172) 33-1150(代) FAX (0172) 33-1153

厚生労働省指定工場

社団法人日本義肢協会登録・東北101号

# (株)千秋義肢製作所

代表取締役 佐々木 雅伸

義手・義足・装具・車椅子・リハビリ用品

秋田市新屋豊町1-22  
TEL 018-823-3380 FAX 018-862-5126